

コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を

【UCCグループ概要】

創業：1933年5月1日

本社：兵庫県神戸市

事業内容：コーヒー関連事業、業務用サービス事業、外食事業、
コーヒーマシン事業、海外事業 ほか

事業会社：88社（日本・欧州・アジア・オセアニア 2022年4月現在）



【目標】

- 「2040年までにカーボンニュートラルの実現」という目標に向け、温室効果ガスの削減策を実施。
- 温室効果ガスについて、UCCグループの各事業会社からの排出（Scope1）、UCCグループの工場・オフィス等での電力使用に伴う排出（Scope2）、及びUCCグループ事業会社のサプライチェーンからの排出（Scope3）に分類。その各カテゴリーにおいて、データ把握を行うと共に、温室効果ガス削減対策の検討と実施を促進。
- 2030年までの温室効果ガス削減に関する中期目標として、「Scope1と2の温室効果ガス排出量を46%削減」を設定。

【主な取組と課題】

- カーボンニュートラルの実現に向け①再生可能エネルギーの導入、②バイオマスボイラーの活用、③水素焙煎の推進等に取り組む。
- 水素焙煎とは、一般的に天然ガスを使用して焙煎している方法に替わり、CO₂を排出しない水素を熱源とする焙煎方法。UCCでは水素焙煎機の開発等を推進しており、2022年9月の「第5回水素閣僚会議」で水素焙煎コーヒーを提供。
- Scope3量の把握と削減が大きな課題。
コーヒー豆の生産国でのCO₂排出量が圧倒的に大きく、グローバルな取組が必要。商品の運送に係るCO₂排出など、関係各社と連携した取組が必要。

【バイオマスボイラーの利用】

- UCC滋賀工場・兵庫飲料工場では、コーヒー飲料製造時に発生する抽出後のコーヒー粉を「バイオマスボイラー」で燃やし、その際に出る蒸気の大部分を、コーヒー抽出用のお湯を沸かすことに利用。
- **兵庫飲料工場では通常の燃料使用時と比較し、燃料使用量が18%削減**（CO₂ 543トン）
- バイオマスボイラーは、化石燃料を使う通常のボイラーよりも大幅にCO₂を削減する事が可能。

※バイオマスボイラーとは、従来は水蒸気や熱水を得るために使用していた化石燃料の代わりに、木屑・紙屑・廃タイヤなどの産業廃棄物を燃料とし、水蒸気・温水などを得る熱源機器。



UCC兵庫工場設置太陽光パネル

【再生可能エネルギーの導入】

- 2022年より、工場や施設における再生可能エネルギー・クリーンエネルギー化の取組をスタート。
- 第一弾としてUCC兵庫工場において、隣接する工場倉庫屋根上に設置した太陽光発電設備から受電できる装置を設置し、使用電力の一部を再生可能エネルギーに置き換え。
- 兵庫工場の全電力の約6%を賄うとともに、年間で約95トンのCO₂削減効果の見込み。
- 2023年現在、UCCグループ内の5か所で導入済み。
（UCC兵庫工場・六甲アイランド工場、
ユニカフェ神奈川総合工場、神戸本社、東京本部）